

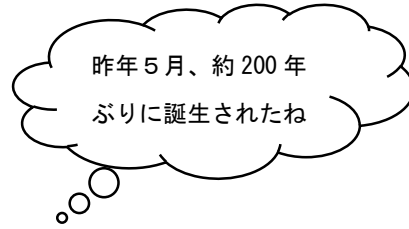
# 日本史 A 休校中の課題 3

- \* 空欄部分に適切な語句を「解答用紙」に埋めること
- \* 埋められていない箇所がある場合未提出扱いとする
- \* 提出は「解答用紙」のみ、学年・組・名前を  
しっかり記入すること

# 日本史の振り返り—中世から近世まで—

## ○平安時代末期

- ・ 朝廷…藤原氏が権力独占  
→ 藤原頼通の娘に皇子がおらず、影響力弱まる



↓  
1086年 [1 ] 天皇が位を皇子に譲り、[2 ] に

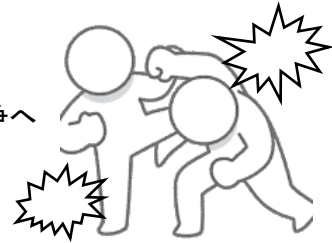
→ 幼い天皇に代わり、自身が実権を握って政治を思い通りに

\* [ 2 ] の政治の場所(と [ 2 ] 自身)を「院」と呼ぶので、[ 2 ] 主導の政治を [3 ] と呼ぶ!

↓

[ 3 ] は三人の院により約100年続く…

- ・ 1156年 [4 ] 勃発  
天皇方と上皇方とで朝廷内で激しい対立…武士たちによる代理戦争へ  
→ [5 ] 天皇方の勝利!



↓  
1159年 [6 ] 勃発

出家した [ 5 ] 院の直臣たちによる対立…再び武士たちが交戦

→ 平氏の [7 ] が源氏の源義朝を破る

⇒ 直臣たちの死亡により、[ 7 ] ら平氏が政治の中心に

- ・ 平氏の隆盛… [ 7 ] が武士で初の太政大臣になり、親族も高官に  
※「平氏にあらずんば、人にあらず」…平氏絶頂期をあらわす



↓

貴族としても武士としても最高の存在に

⇔ 貴族・武士両方から不満を持たれるように

## ○鎌倉時代

- ・ 1180年 後白河院の皇子以仁王が全国に「打倒平氏」の命令  
→ 伊豆に流されていた [8 ] など、多くの武士が挙兵

↓

木曾の源義仲、[ 8 ] の弟 [9 ] などにより平氏は都落ち

↓

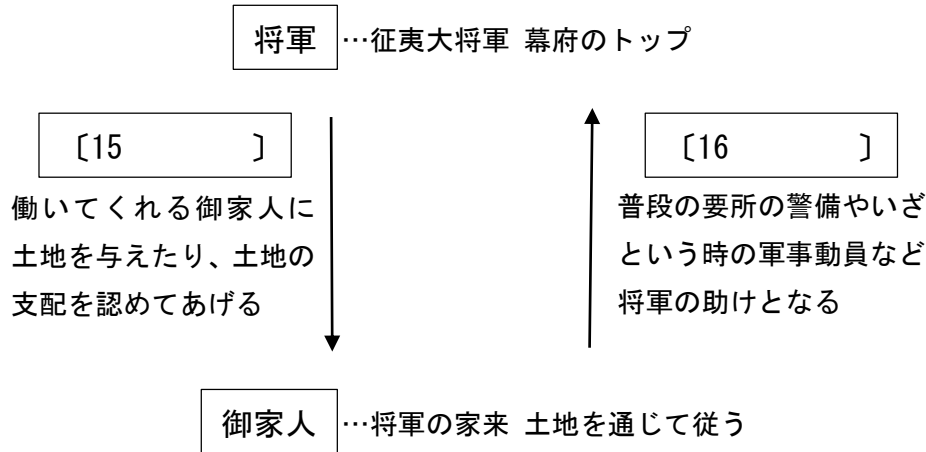
1185年 長門(山口県)での [10 ] で平氏滅亡

- ・ [ 8 ] の政治…自身は [ 11 ] を本拠地とし、武士の政府 [ 11 ] 幕府を開く
- \* 支配を認められた土地へ、国には [ 12 ]、荘園・公領に [ 13 ] を設置
- \* 対立した弟の [ 9 ] を指名手配し、匿った東北の奥州藤原氏を追討  
→東日本を実力で支配
- \* 1192年 征夷大將軍に任じられる



☆鎌倉幕府の仕組み

將軍に土地を与えられ家来となった武士を [ 14 ] とよぶ



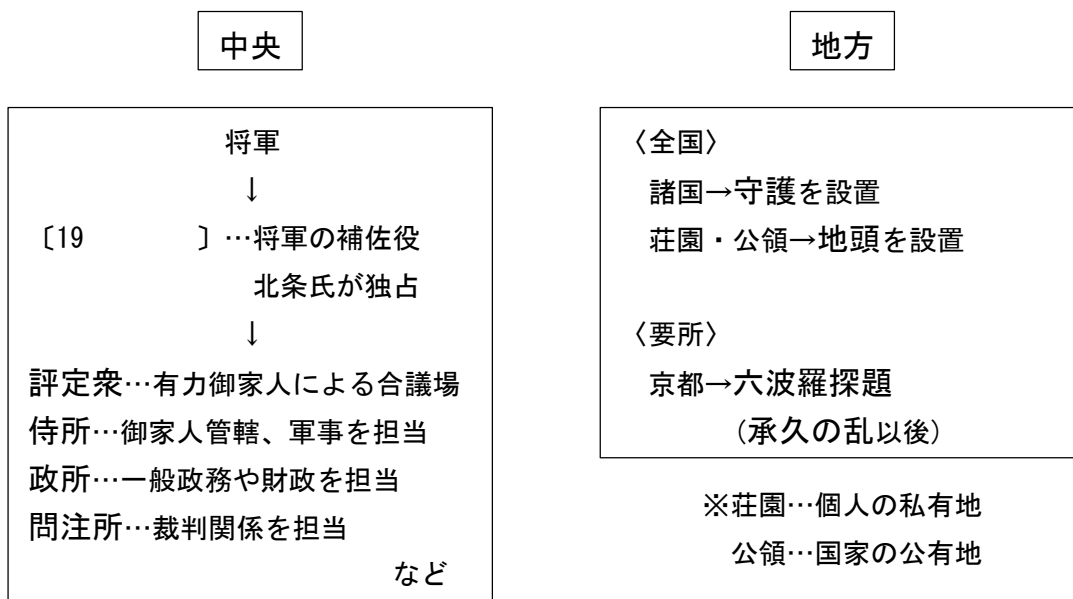
↓

このように土地を通じて主従関係を結ぶ制度を [ 17 ] とよぶ

\* 鎌倉幕府は初めて [ 17 ] に基づいた政府



- ・ [ 8 ] 死後、息子たちが將軍に…有力御家人が権限をふるい、実質無力  
→ [ 8 ] の奥さんの [ 18 ] から北条氏が最高権力者に



・ 1221 年 [20 ] 発生

〈きっかけ〉

朝廷で幕府打倒の動き… [21 ] が中心  
→ 権力握る北条氏追討の命令を西国の武士や僧兵に出す

〈経過〉

朝廷に従うか幕府に従うか迷う武士  
→ [ 18 ] による演説で武士は感激、大勢が幕府に味方  
→ 幕府軍が勝利、 [ 21 ] らを追放など処罰



幕府の全国的な影響力が拡大

・ 1274~1281 年 [22 ] おこる

〈きっかけ〉

東アジアにてモンゴルが勢力のばす…中国の大部分や朝鮮半島まで進出 ヨーロッパにも  
→ 皇帝 [23 ] の時に国名を「元」とし、日本に服属要求



鎌倉幕府の八代執権 [24 ]、これを拒否し使者を斬る  
→ [ 23 ] 激怒、武力による実力支配を決定



〈経過〉

1274 年 元、朝鮮の兵も含む約三万の兵で九州北部を襲撃  
→ 新兵器に苦しむも敢闘、何とか元軍を追い返す



元は二度目の準備 & 先に中国を支配、幕府は博多湾の防備強化で対策



1281 年 元が再度来襲…中国、朝鮮の兵含む約十四万の軍  
→ 水際で上陸を阻止し、夜にも小舟で襲撃して元軍に大打撃  
→ 季節柄の暴風雨で大損害、元軍また撤退



〈影響〉

- [ 23 ] は三度目を計画も、他に内外に敵が増え日本を後回しに
- 幕府も三度目を警戒、引き続き防備を続行
- 活躍した御家人たちは十分な報酬を得られず、幕府に対する不信感を持つ  
→ 戦費がかさみ、土地を手放しても困窮する武士たちが増加

・ 多くの戦乱が起きた時代

→ すべては絶えず変化するという「無常観」の思想が著作物に反映

有名作： [25 ] …平氏の盛衰を描く物語 祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり…  
[26 ] …兼好法師によるエッセイ 徒然なるままに、日暮らし…

## ○室町時代

### ～前の時代～

- ・鎌倉幕府に不満もつ〔27 〕が討幕を計画  
→二度も失敗、島流しに  
↓  
〔 27 〕の息子や反幕府の武士らが挙兵、幕府打倒へ各地で蜂起  
→最終的に新田義貞、〔28 〕らに攻められ、鎌倉幕府滅亡



- ・幕府滅亡後、〔 27 〕中心に朝廷主導で政治を開始(=建武の新政)  
⇔〔 27 〕のワンマンで政治が停滞、公家中心で武士が不満持つ  
↓  
〔 28 〕が新幕府創設をめざし新政権に反旗ひるがえす  
→〔 27 〕を京都から追放、新たな天皇を立て京都を拠点に



### ～南北朝時代～

- ・京都から逃げた〔 27 〕、吉野(大和国)で朝廷を開き、こちらの正当性を主張  
→京の朝廷(北朝)と吉野の朝廷(南朝)で分かれて争う時代に
- ・武士内でも〔 28 〕の弟と部下の間で対立、さらに二分して争うことに

### ～室町幕府の成立と安定～

- ・三代将軍の〔29 〕が京都の〔30 〕に幕府を開く  
→〔 30 〕幕府の誕生
- ・〔 29 〕のはたらきで 1392 年に南北朝が合体、六十年に及ぶ争いに終止符
- ・中国大陸から元が追い出され、「明」が新たに建国  
→〔 29 〕、明と国交を開き朝貢貿易を行う  
※このとき、「倭寇」と呼ばれる海賊が東アジアで大暴れ  
→明との貿易で、海賊と間違われないよう「勘合」という証明書を使用し対策



- ・〔 29 〕、京の北山の別荘に〔31 〕を建設  
→その建築様式が当時の文化の象徴に



### ～庶民の台頭～

- ・五代将軍の跡継ぎ問題…くじ引きで〔32 〕が六代将軍に  
→自身の権限強めるため、有力武士を排除したり、ワンマンな政治を敢行  
↓  
1441 年 弾圧を恐れた有力守護により〔 32 〕暗殺 = 嘉吉の変

- ・地方で庶民たちが自治組織を創設…ルールや会議を設け、時に支配者に対抗  
→支配者に要求を通すため団結して〔33 〕を結ぶ

↓

〔 33 〕による大規模な農民反乱が頻発するように

[例]

1428年 正長の土(徳政)一揆…借金の無償化をねらった初の大規模な農民反乱

1485年 山城の国一揆…山城国の住民と地方武士により守護を追放、八年間自治

1488年 加賀の一向一揆…浄土真宗の信徒が地方武士と結び、守護を滅ぼし百年自治

～戦国時代～

- ・1467年 〔34 〕おこる

〈背景〉

六代将軍の暗殺による幕府の衰退、武家の家内での内紛や家督争いがあいつぐ

〈きっかけ〉

八代将軍〔35 〕の後継をめぐり、息子側と弟側に分かれて幕府内で対立  
→幕府権力者や〔 35 〕の妻も関わり、全国規模で勢力が東西にわかれ争う

〈経過〉

京都を舞台に有力守護が東西に分かれて武力衝突…京都は荒廃、知識人も地方へ  
→関東など地方でも武士同士で小競り合い

↓

京都での戦いは1477年に終結も、地域的な争いは全国へ拡大



戦国の世が到来へ

- ・〔 35 〕が東山に、〔 31 〕にならって〔36 〕を建築  
\*現在の日本建築の基礎となる建築様式
- ・水墨画や能など、現在に伝わる伝統文化がこの時期に確立
- ・民衆に向けた絵入りの物語である〔37 〕が誕生  
\*「浦島太郎」「一寸法師」などが有名
- ・〔 34 〕後、武力で成り上がり地域を支配する者が誕生  
→〔38 〕と呼ばれるように



[例]

関東…北条氏、東海…今川氏、甲信越…上杉氏・武田氏、中国…毛利氏、九州…島津氏ら

## ○安土桃山時代

～ヨーロッパ～

- ・各国がキリスト教の布教、貿易拡大、資源の獲得めざし世界へ進出  
→世はまさに〔39〕



～日本～

- ・中国人の船が日本の種子島に漂流…ポルトガル人が同行  
→島の領主がポルトガル人から〔40〕を購入、製造法などを研究  
↓  
堺(大阪)や根来(和歌山)などで生産開始、やがて全国へ



- ・ヨーロッパでの宗教改革を受けて、カトリック教会が海外布教へ  
↓

1549年 イエズス会の〔41〕が鹿児島上陸  
→日本にキリスト教が広まっていく  
\* 当時のキリスト教信者は〔42〕と呼ばれる



- ・ポルトガルやスペイン船の往来…布教や貿易が中心  
\* こうした貿易を〔43〕とよぶ(彼らを「南蛮人」と呼んだため)

☆〔44〕、天下統一への道  
\* 尾張(愛知)の戦国大名、昔のあだ名は「うつけ」



1560年 桶狭間の戦いで今川義元を討ち、勢力拡大

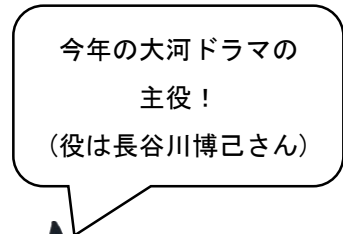
1568年 室町幕府15代将軍に〔45〕を立てて京都に進出

1573年 〔45〕を京都から追放し室町幕府滅ぼす

1575年 長篠合戦で甲斐(山梨)の戦国大名武田勝頼を撃退  
\* 〔40〕を使つての戦術が勝因のひとつ

1580年 浄土真宗(一向宗)の一揆の総本山である石山本願寺を屈服させる

1582年 〔46〕にて自害  
\* 滞在中の京都にて、家臣の〔47〕による裏切り



\* 政治家としても優秀

- ・キリスト教を容認…貿易収入拡大、仏教勢力への対抗策に
- ・支配地の関所を廃止…人やモノの通交を活発に
- ・城下町での税免除…自由な商業を奨励

☆〔48 〕、天下統一までの道

\* 農民出身、〔 44 〕の部下

1582年 山崎の戦いで〔 47 〕を討ち、〔 44 〕の後継者に

1585年 朝廷から関白に任ぜられ、事実上日本一の権力者に

1587年 〔49 〕を發布…キリスト教宣教師を国外に追放

\* 九州の大名がイエズス会に土地を勝手に譲っていたことなどが契機に

1588年 〔50 〕を發布…農民から武器を没収、一揆による反乱を阻止

1590年 関東の北条氏、東北の伊達氏ら諸大名を降伏させる

→天下統一の完成

1582～1598年 〔51 〕の実行…全国の土地を徹底調査、土地制度を統一化

1592年 朝鮮の武力支配をめざし、約15万の大軍を現地へ派遣(文禄の役)

→朝鮮水軍の猛攻、現地人の抵抗にあい苦戦、休戦に

1597年 交渉決裂後、ふたたび朝鮮に約14万の大軍派遣(慶長の役)

→またもや苦戦

1598年 〔 48 〕が病死

→これを機に朝鮮の軍は撤退



## ○江戸時代

☆〔52 〕の天下統一事業

\* 〔 44 〕の同盟相手、〔 48 〕のライバル

1600年 〔53 〕勃発…天下分け目の戦いに勝利

\* 敵対した〔 48 〕の直属の家臣〔54 〕ら西軍の武将を次々処刑

1603年 ・征夷大將軍に任ぜられる

・〔55 〕に幕府を開く…江戸時代の幕開け

1605年 將軍職を息子の徳川秀忠に譲る…將軍職が徳川家の世襲制であることを示す

1614～1615年 二度にわたる〔56 〕で豊臣家を滅ぼす

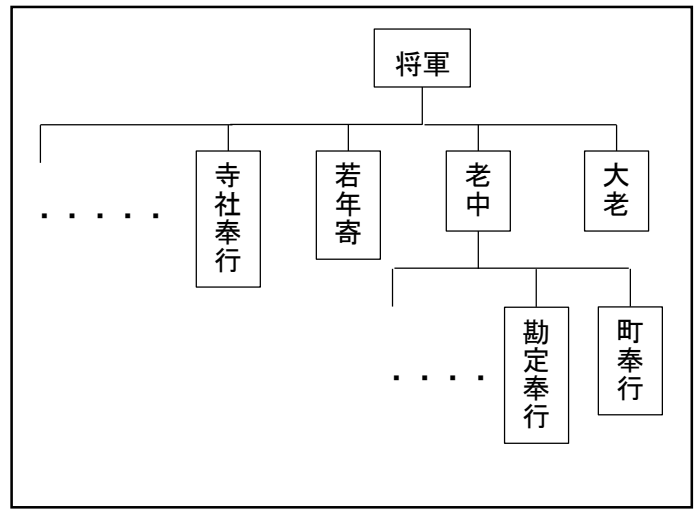




☆江戸幕府の仕組み

・政治機構

- 大老…将軍に次ぐ権力者、臨時の職
  - 老中…将軍の補佐役、常時複数人を配置
  - 若年寄…老中の補佐役
  - 寺社奉行…全国の寺や神社の管理を担当
  - 町奉行…江戸の町を管轄
  - 勘定奉行…幕府財政、直轄領の支配を担当
- などなど…



組織略図

・経済力

- 各地の金銀山をおさえる…佐渡、石見、生野など
- 貨幣の鑄造権を独占…貨幣の価値を自由に調整可能
- 〔57 〕を設置…日本橋を起点とした幕府直轄の道路



・地方支配

- 全国の大名に支配地を与え、その統治を命じる
  - \* こうした支配地を〔58 〕、〔 58 〕のトップである大名を藩主と呼ぶ
- 三代将軍〔59 〕の頃、大名に〔60 〕を命じる
  - \* 一年交替で支配地と江戸を往復させ、大名の財力を削る

・民衆支配

- 支配階級である武士には苗字や〔61 〕などの特権を認め、幕府への忠誠を求める
  - 被支配身分の百姓（農民）、職人、町人との線引きを明確に
- 民衆ひとりひとりに税を課し、村や町の代表者に納税の責任を負わせる

・朝廷対策

- 朝廷の監視、幕府との連絡役に武家伝奏という役を設置（定員二名）
- 公家や天皇に対しルールを定め、「学問」や「家業」の専念を命じる

・宗教政策

- キリスト教を危険視…諸外国の侵略や信徒の団結を恐れる
  - 1612年 幕府直轄地に〔62 〕を発布…改宗を強制、違反者を徹底弾圧
  - ※翌年、全国へ
- 1637年 〔63 〕おこる…苛酷な納税、キリスト教への弾圧に民衆が蜂起
  - 約12万の兵力を動員し、翌年ようやく鎮圧
- 〔 63 〕後、すべての民衆に対し寺院との結びつきを強制



今も日本のお家には大体関係の深いお寺があるのはこの影響！



・ 対外政策

○初期はオランダやイギリスとも貿易…アジアの各国拠点への海外渡航を許可制に

→許可証をもつ〔64 〕による貿易がさかんに

○キリスト教の禁止、幕府の貿易独占を理由に、貿易制限を実行

1624年 スペイン船の来航禁止

1635年 日本人の海外渡航、帰国を禁止

1639年 ポルトガル船の来航禁止

1641年 オランダの商館を長崎の〔65 〕に移動

↓

通交を明(中国)、オランダ、朝鮮、琉球王国(沖縄)、アイヌ民族(北海道)に限定

⇒いわゆる〔66 〕の状態が完成

○琉球王国を九州・薩摩藩の島津氏が征服

→土地や民衆を支配し、幕府から交易権を獲得

○蝦夷地(北海道)の先住民民族・アイヌ…道南の松前氏と交易も不利な貿易

→指導者〔67 〕を中心としたアイヌが反乱も鎮圧される

☆江戸幕府の安定期

・ 五代将軍〔68 〕のとき、武士へのルールが変化

→これまでの武力中心の考えから、法律中心の政治へ

・ 学問の活発化…公式の学問に〔69 〕を設定し、礼儀や忠義などを重視

→農学、医学、数学、天文学、歴史学、国文学など各方面でも発展みられる



・ 1685年〔70 〕を公布…生き物の殺生を禁止、特に犬は大事に

\*〔68 〕(戌年)に跡継ぎが生まれなため、僧侶のアドバイスで実行

・ 水上交通が強化…有力商人らの助力で河川や海上の交通路が整備される

→全国各地の特産が江戸や大坂などの主要地に集まりやすく

・ 歌舞伎や俳句、人形浄瑠璃など、文芸が大きく発展…一般の町民にも受け入れられる

☆幕府政治の改革と斜陽

・ 先の時代のぜいたくな金遣いや火災などの災害復興など

→幕府財政の困窮に繋がる

・ 八代将軍〔71 〕の政治改革(=〔72 〕)

○参勤交代の負担を緩める代わりに各大名に米を献上させる

○〔73 〕を記し、裁判基準を設定

○新田開発を進め、税率を収穫量ごとではなく定額に

○民衆の意見を聞くため〔74 〕を設置





近い時期に二度の大きな飢饉…虫害や噴火による冷害などで大不作  
→苦しんだ農民たちによる一揆や打ちこわし(米問屋の襲撃)が頻発

- ・老中〔75〕の政治改革…側用人から昇格
  - 商工業者の事業独占を認め、代わりに税収を増やす
  - 蝦夷地(北海道)の開拓をめざして調査団を派遣
  - 新田開発の積極的な実行



特定の商人と結びつき、賄賂などが横行  
→幕府内外から批判が集中し、〔75〕は失脚

- ・同時期に西洋の学問が国内で人気に…西洋書が入手し易く  
→医学や物理学など諸学問に大きな発展



- ・古典研究の発達…「国学」として独自に発達  
→古代の天皇中心の政治制度復活をめざす動きに

- ・教育施設の拡大…全国の藩による学校や有力町人、知識人による私塾が設立  
→一般庶民に対する基礎教育の場として〔76〕が各地に



- ・〔77〕の隆盛…印刷技術や出版業の発達で錦絵として発展

- ・老中〔78〕の政治改革(=〔79〕)
  - 地方農村の復興事業…都市への出稼ぎ禁止、農村への帰郷を支援、米穀の備蓄を指示
  - 町人に節約を命じ、余り分を災害等緊急時に積み立てさせる
  - 武士たちの借金を強制的に帳消しに
  - 幕府直轄の学問所での朱子学以外の研究を禁止
  - 出版統制を厳しくし、幕府への批判や風俗の乱れを抑圧



厳しい統制や節約の強制に幕府内外から批判  
→朝廷との衝突もあり、〔78〕は失脚

- ・同時期、各地で外国船の出現が頻発

**ロシア**: 1792年 根室に到着…漂流民を届けるついでに通商求める  
→幕府、長崎に行くよう促す

1804年 長崎に到着…再度通商求める  
→幕府、冷淡に断る

1811年 国後島にてロシア軍艦の艦長が日本の警備兵に捕縛  
→ロシアに捕まった日本人商人が尽力して解放



\* これらを受け、幕府は蝦夷地(北海道)や樺太(サハリン)に調査団を派遣

**イギリス** : 1808年 軍艦がオランダ船を追って長崎に侵入  
→商館員を人質に燃料や食料など強奪、速攻退去



↓  
幕府、全国各地の海岸線に台場を設置…大砲を備え、撃退を命じる  
→1825年 正式に全国の大名へ撃退命令

**アメリカ** : 1837年 商船が日本人漂流民を届けに接近  
→日本側、命令にもとづき撃退  
\*国内から批判続出も、幕府はこれを厳しく処断



- ・1832年から相次ぐ全国的な飢饉…一揆や打ちこわし続出も、藩や幕府は対処取らず  
→1837年 元幕府役人の〔80 〕が武装蜂起し問題に  
\*同年にはその弟子を自称する過激派の反乱も

- ・老中〔81 〕の政治改革(=〔82 〕)
  - 将軍や朝廷も含む全てに対し厳格な儉約・風俗取締りを指令
  - 農民の出稼ぎ禁止、都市貧民の強制送還
  - 独占的な商人団体の解散を指示…商品流通の促進、物価の引下げがねらい  
→結果的に逆効果となり、江戸の物資不足が加速
  - 複数藩の領地変更や江戸・大坂付近の領地の幕府直轄化を命令  
→幕府内外から激しく反対され撤回



↓  
数々の失政や幕府中心の横暴なやり口に批判続出し〔 81 〕は失脚  
→改革の失敗が幕府権力の衰退につながる…幕府に不満の声



- ・朝廷の権威が復活傾向に…幕府の衰退と反比例して、社会から求められるように

- ・各藩の独自政策…経済力、軍事力を強化し、幕政にも強い発言力を持つように  
〔例〕 優秀な人材の登用、西洋の兵器や軍備の導入、独自の金融・経済政策 など

↓  
↓  
↓

「武士の時代」の終わりと激動の「幕末」へ...

# 《解答用紙》

学年

組

名前

---

[ 1 ] \_\_\_\_\_ [ 2 ] \_\_\_\_\_

[ 3 ] \_\_\_\_\_ [ 4 ] \_\_\_\_\_

[ 5 ] \_\_\_\_\_ [ 6 ] \_\_\_\_\_

[ 7 ] \_\_\_\_\_ [ 8 ] \_\_\_\_\_

[ 9 ] \_\_\_\_\_ [ 10 ] \_\_\_\_\_

[ 11 ] \_\_\_\_\_ [ 12 ] \_\_\_\_\_

[ 13 ] \_\_\_\_\_ [ 14 ] \_\_\_\_\_

[ 15 ] \_\_\_\_\_ [ 16 ] \_\_\_\_\_

[ 17 ] \_\_\_\_\_ [ 18 ] \_\_\_\_\_

[ 19 ] \_\_\_\_\_ [ 20 ] \_\_\_\_\_

[ 21 ] \_\_\_\_\_ [ 22 ] \_\_\_\_\_

[ 23 ] \_\_\_\_\_ [ 24 ] \_\_\_\_\_

[ 25 ] \_\_\_\_\_ [ 26 ] \_\_\_\_\_

[ 27 ] \_\_\_\_\_ [ 28 ] \_\_\_\_\_

[ 29 ] \_\_\_\_\_ [ 30 ] \_\_\_\_\_

[ 31 ] \_\_\_\_\_ [ 32 ] \_\_\_\_\_

[ 33 ] \_\_\_\_\_ [ 34 ] \_\_\_\_\_

[ 35 ] \_\_\_\_\_ [ 36 ] \_\_\_\_\_

[ 37 ] \_\_\_\_\_ [ 38 ] \_\_\_\_\_

[ 39 ] \_\_\_\_\_ [ 40 ] \_\_\_\_\_

[ 41 ] \_\_\_\_\_ [ 42 ] \_\_\_\_\_

[ 43 ] \_\_\_\_\_ [ 44 ] \_\_\_\_\_

[ 45 ] \_\_\_\_\_ [ 46 ] \_\_\_\_\_

[ 47 ] \_\_\_\_\_ [ 48 ] \_\_\_\_\_

[ 49 ] \_\_\_\_\_ [ 50 ] \_\_\_\_\_

[ 51 ] \_\_\_\_\_ [ 52 ] \_\_\_\_\_

[ 53 ] \_\_\_\_\_ [ 54 ] \_\_\_\_\_

[ 55 ] \_\_\_\_\_ [ 56 ] \_\_\_\_\_

[ 57 ] \_\_\_\_\_ [ 58 ] \_\_\_\_\_

[ 59 ] \_\_\_\_\_ [ 60 ] \_\_\_\_\_

[ 61 ] \_\_\_\_\_ [ 62 ] \_\_\_\_\_

[ 63 ] \_\_\_\_\_ [ 64 ] \_\_\_\_\_

[ 65 ] \_\_\_\_\_ [ 66 ] \_\_\_\_\_

[ 67 ] \_\_\_\_\_ [ 68 ] \_\_\_\_\_

[ 69 ] \_\_\_\_\_ [ 70 ] \_\_\_\_\_

[ 71 ] \_\_\_\_\_ [ 72 ] \_\_\_\_\_

[ 73 ] \_\_\_\_\_ [ 74 ] \_\_\_\_\_

[ 75 ] \_\_\_\_\_ [ 76 ] \_\_\_\_\_

[ 77 ] \_\_\_\_\_ [ 78 ] \_\_\_\_\_

[ 79 ] \_\_\_\_\_ [ 80 ] \_\_\_\_\_

[ 81 ] \_\_\_\_\_ [ 82 ] \_\_\_\_\_